

妙法華寺便り

令和6年12月号



和尚さんのよろず話

今年も残すところ、10日ほどとなりました。新年を迎える準備に大忙しという方もいらっしゃるのではないのでしょうか？その一つに年賀状があります。かつては、どのご家庭でも必ずと言っていいほど送られていたように思います。しかし、メール、ラインなどの進歩と共に、段々と少なくなり、ついに今年は郵便料金的大幅値上げも手伝って、年賀状を送らない方も多くなったと聞きます。

あらためて日本では年賀状はいつから始まったのか気になったので調べてみました。遡ると奈良時代には、すでに年始回りという年始の挨拶をする行事があったとされています。平安時代には貴族や公家にもその風習が広まり、挨拶が直接行えないような遠方などの方への年始回りに代わるものとして、文書による年始挨拶が行われるようになったそうです。

現代では年賀状を作る時に、定型文や既存の文章を使っている方が多いのではないかと思います。実は当時の人も文例集を頼りに書いていたそうです。平安時代後期の学者である藤原明衡ふじわらのあきひらによってまとめられた文例集に『庭訓往来』ていしんおうらいというものがあります。その中に正月の挨拶の文例があり、「春始御悦向貴方先祝申候訖」とあります。「春の始めの御悦び、貴方に向かってまず祝い申し候」と読むのだそうです。これが、現在確認できる最古の年賀状と言われています。現在の年賀状とあまり変わらない文章ですね。先人も挨拶文作成には苦労したのではないかと思います。

そして江戸時代には武家社会を中心に文書による年始挨拶が一般化し、「飛脚」制度の充実で江戸時代中期には庶民も年賀の手紙を出すようになったようです。明治になり郵便制度が開始されると、上流階級の人々や知識人を中心に年賀状が出されるようになり、はがきで年賀状を出すのが主流になっていきました。

そのような年賀状ですが、葉書を使ったいわゆる「年賀状」でなくても、心に向けた新年のご挨拶が出来れば良いのではないかと思います。

当山も毎年、檀信徒へ年賀状を送らせて頂いておりましたが、今回より年賀状に替え、新年の挨拶として各家の繁栄を願い、同封の門松の絵と文書をお送りしますので、ご了承下さい。



どうぞ良い年をお迎え下さい。諸天善神と檀信徒の方々並びに各家のご先祖様に感謝いたします。本年も一年間ありがとうございました。

合 掌

◇ 行事報告 ◇

11月16日（土）日蓮聖人御会式御速夜

11月17日（金）御会式・摩利支天月例祭執行

日蓮聖人第743回の御会式を16日午後6時より速夜の式典、翌日は午前10時の法要に引き続き摩利支天月例祭を執行し、午後2時に最終の法要式を、檀信徒の方々と共に執り行いました。組寺からは、大坊・不変院様と正善院様にご参拝くださいました。二日間に渡る式典の準備、当日のご接待、片付けをして下さった皆様、ありがとうございました。



六地藏様

妙法華寺供養塔台地に六地藏をお祀りさせて頂き4年が過ぎました。今年も色あせた涎掛けを新調させて頂き、一読させて頂きました。



11月20日（水）庭瀬組寺主催グランドゴルフ大会

組寺檀信徒各位と協賛事業者の方々とグランドゴルフ大会が開催されました。



◇ 行事案内 ◇

除夜の鐘

1月1日（水）午前零時を合図に、お寺の鐘を108回撞きます。

集合時間は、31日午後11時50分です。除夜の鐘について、清らかな気持ちで新年を迎えましょう。

摩利支天大祭・御札等の跋魂祭

新年1月18日（土）午前10時より本堂にて跋魂祭を執行し、引き続き摩利支天月例祭を拝殿にて執り行います。古い御札や塔婆・予めお預かりした位牌などの魂を抜いて自然のものへと戻って頂く儀式です。

また、今年1月に跋魂した御札等は、12月1日からの最上稲荷お火焚き祭期間中に最上稲荷の護摩壇にてお焚きあげさせていただきます。

開運星祭（厄除け祈願）

2月4日（火） 午前10時より本堂にて執行いたします。

「大摩利支尊天」の御神力をいただき「年中安全」の御守護が受けられるように、厄除け諸難除けの特別祈禱を行いますので、是非、お申し込み、ご参加ください。なお、お申し込みをされて、当日ご参加出来ない方は、後日お札をお送りいたします。